# 東京都美術館ニュース Tokyo Metropolitan Art Museum News

No.451 2017年3月31日 発行 90周年記念号 90th Anniversary Edition





東京都美術館館長 真室佳武

東京都美術館は、2016 (平成28) 年に開館90周年を迎え、記念展「木々との対話一再生をめぐる5つの風景」をはじめ、記念フォーラムやアーカイブズ資料展示などの事業を行い、節目の年を祝うとともにさらなる100周年に向けて美術館の発展を心に誓いましたが、さらに喜ばしいことに20年振りに「美術館ニュース」を復刊することにいたしました。

1995年に東京都現代美術館の開館に伴い、東京都美術館は、その機能の一部を現代美術館に移しますが、「美術館ニュース」も、1997年3月31日発行の450号をもって休刊となりました。しかし、しばらくは両館共通の広報誌を発行しております。

一方、東京都美術館は、建物や設備の老 朽化で機能不全を引き起こしかねないとし て、2010年から2年間の大規模改修工事に着 手、2012年にリニューアル・オープンしました。 新しくなった美術館は、「アートへの入 口」をモットーに新しいミッションのもと 各種展示事業のほか、人と作品、人と人、 人と場所とをつなぐアート・コミュニケー ション事業を展開し、幅広い美術館活動を 行っています。 新しい「東京都美術館ニュース」では、さまざまな活動の状況をお知らせして、都 民をはじめ人々にとって、潤いと安らぎの ある生活に少しでも寄与できればと考えて おります。

In 2016, Tokyo Metropolitan Art Museum marked its 90th anniversary by holding an array of commemorative events. They included the exhibition "Dialogue with Trees—Five Stories of Rebirth and Renewal" as well as a commemorative forum and an Archives Materials exhibition. In celebrating this juncture in our history, we looked to our centennial anniversary and vowed to continue growing as an art museum. As a happy corollary, we decided to resume publication of "Art Museum News" after a hiatus of twenty years.

In 1995, Tokyo Metropolitan Art Museum shifted a portion of its functions to the newly-opened Museum of Contemporary Art Tokyo (MOT). At that time, publication of "Art Museum News" ceased with No. 450 (March 31, 1997). For a brief period thereafter, however, a public relations newsletter covering both museums was issued.

Then, in 2010, to address building deterioration and aging mechanical systems, Tokyo Metropolitan Art Museum embarked on a large-scale renovation, reopening two years later in 2012. Revitalized with a new mission and taking "a doorway to art" as its motto, the renovated museum launched varied thematic exhibitions and art communication projects designed to connect people with artworks, other people, and places, and broadly expanded its activities.

The new "Tokyo Metropolitan Art Museum News" will be reporting on our many activities. We hope it will contribute even a little peace and enjoyment to the lives of Tokyo's citizens and visitors to the city.

MAMURO Yoshitake Director Tokyo Metropolitan Art Museum

# 東京都美術館90年の歩み

Tokyo Metropolitan Art Museum's 90 Years

東京都美術館は日本で初めての公立美術館として、1926年5月1日に開館しました。時代は、大正が終わり、昭和が始まる年。いつでも美術にふれられる場がほしい――。長年の悲願は、たったひとりの実業家・佐藤慶太郎の篤志によって実現しました。1926年の誕生から、今年で90周年。「芸術家の晴れ舞台」として、「世界と日本の名品に出会える美術館」として、かけがえのない出会いの場を提供してきました。

これまでに開催した展覧会数 12,793展 これまでに入館された総観覧者数 130,554,678人

(2016年3月末現在)

The Tokyo Metropolitan Art Museum, Japan's first public art museum, opened on May 1, 1926. Japan's Taisho period (1912-1926) was about to end and a new period, Showa (1926-1989) about to begin. People yearned for a place to enjoy art whenever they liked; and their long-cherished dream was realized through the volunteer spirit of a single entrepreneur, Keitaro Sato.For the ninety years since its founding in 1926, the Tokyo Metropolitan Art Museum has provided a venue for precious encounters as a "Grand Stage for Artists" and a museum offering "encounters with art masterpieces from Japan and abroad."

Number of art exhibitions held: 12,793 Number of visitors received: 130,554,678 (As of March 2016) 1926(大正15)年 | 東京府美術館の創設

実業家・佐藤慶太郎から100万円(当時の金額)の寄付を受け、日本初の公立美術館として 開館(設計:岡田信一郎)。



1943 (昭和18)年の都制施行に伴い、「東京都美術館」に名称変更。

#### 1975 (昭和50)年 | 新館の開館

旧館の老朽化により、新館を建設(設計:前 川國男)。学芸員による企画展や作品収集にも 力を注ぎ、本格的な美術館として活動を開始。

1995 (平成7) 年、東京都現代美術館の開館に際し、収蔵品等を移管。

2012 (平成24)年 | リニューアル・オープン ユニバーサルデザイン採用のほか、レストラン、ショップなども充実させる大規模な改修工 事を実施。新たな企画展やアート・コミュニケーション事業を開始して再出発。



## 2016(平成28)年 | 開館90周年

開館90周年事業として「開館90周年記念フォーラム」「開館90周年記念アーカイブズ資料展示」「開館90周年記念展」を開催。

# 開館90周年記念フォーラム 創造と共生の場を求めて—美術館の歴史と未来

Tokyo Metropolitan Art Museum's 90th Anniversary Forum To Be a Center for Creativity and Coaction—The Museum's History and Future

日本で最初の公立美術館として、2016年に開館90周年を迎えた東京都美術館。その記念事業として、多彩な活動で知られる3人の識者をお招きして記念フォーラムを実施しました。第1部では、芥川賞作家の平野啓一郎さん、東京大学大学院教授の本下直之さん、詩人で多摩美術大学教授の平出隆さんによる講演。第2部のシンポジウムでは、山村仁志(東京都美術館学芸担当課長)の司会により、3人それぞれの視点から、美術館は社会のために何ができるのか、何をすべきなのかなど、美術館の在り方を語っています。当館がミッションとして掲げる「創造と共生の場」と美術館の未来を深く考える機会となりました。

In 2016, the Tokyo Metropolitan Art Museum marked its 90th anniversary as Japan's first public art museum. As a commemorative event, the museum invited three knowledgeable guest speakers and held a forum. Part one of the forum featured lectures by Akutagawa Prize winning author HIRANO Keiichiro, Tokyo University Graduate School professor KINOSHITA Naoyuki, and poet and Tama Art University professor HIRAIDE Takashi. Part two featured a symposium moderated by Director of Curatorial Section YAMAMURA Hitoshi, who asked the three guests their perspectives on what art museums can do and should do for society. The event provided opportunities to think deeply on the Tokyo Metropolitan Art Museum's future and its mission of performing as a center for "creativity and coaction."

#### 開催概要

開館 90 周年記念フォーラム 創造と共生の場を求めて一美術館の歴史と未来

プログラム

第1部(13:30~15:30)

- 1. ごあいさつ
- 真室佳武 (東京都美術館 館長)
- 2. 東京都美術館 90 年の歩みとフォーラムの構成 山村仁志 (東京都美術館 学芸担当課長)
- 3. 日常と美術館 平野啓一郎(小説家)
- 4. 上野になぜ美術館があるの? 木下直之(東京大学大学院 教授)
- 5. パサージュとしての美術館 平出隆 (詩人、多摩美術大学 教授)

日時/ 2016 年 11 月 3 日 (木・祝) 13:30  $\sim$  17:00 会場/東京都美術館 講堂

主催/東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)

第2部(15:50~17:00)

1. 事業報告

共同的な価値生成が起こる場一都美術館の試み 稲庭彩和子(東京都美術館 アート・コミュニケー ション担当係長、学芸員)

2. 事業報告

「創造」を刺激する展覧会を目指して 中原淳行(東京都美術館事業係長、学芸員)

3. フォーラムディスカッション 創造と共生の場としての美術館 平野啓一郎、木下直之、平出隆、山村仁志(司会)

#### 「日常と美術館」

当日の講堂は、美術館に関心のある参加 者の皆さんの熱気で溢れていました。講演 では、3人の登壇者から「美術館」につい て、それぞれにユニークで興味深い話があ りました。

まず、平野啓一郎さんは「日常と美術館」という演題で自らの美術館体験について具体的に語りました。北九州市で育った平野さんの最初の美術館デビューは、高校1年生のときに福岡市美術館で鑑賞した「ダリ展」でした。それまで印刷物でしか見たことがなかった絵画の本物を見て、とても感動したそうです。

また、東京都美術館で感動したのは「バルテュス展」でしたが、絵画表面の絵具のマチエール(絵肌の素材感)の厚みに迫力を感じたということです。そして、パリに住んでいたときには、ルーブル、オルセー、そしてポンピドゥーの各美術館に通い、本物の作品を間近に見ることで、美術の流れの必然性が頭ではなく感覚としてよく理解できたそうです。

つまり、本物を見ることではじめて経験 として理解できることがあるというお話で した。加えて、福岡に限らず、上野でも、 パリでも、帰り道で見た美術館周辺の風景 が記憶の中で具体的な作品と結びついてい るというお話が印象的でした。

### 「上野になぜ美術館があるの?」

木下直之さんは、「上野になぜ美術館があるの?」というタイトルで、スライドを使いながら上野の西郷隆盛の銅像、東京藝術大学の中庭にあるロダンのバルザック像、関東大震災の復興記念碑、明治時代の東京国立博物館の正門跡などを示しつつ、上野に美術館が誕生するまでの公園の歴史を面白く分かりやすく説明していただきました。

さらに、明治時代に上野で勧業博覧会が 開催されたときの展示会場の様子、戦前の 帝室博物館や表慶館の展示室、東京府美術 館の展示室などを、採光や絵の飾り方など を比較しながら話しました。最後に、戦後 の東京国立博物館の展示情景を写した「大



平野啓一郎さん



木下直之さん



平出隆さん ©Takewaki of rengo DMS

好きな写真」を見せて、今まで博物館が取り上げることがなかった「土器」と「子ども」が写っている事実を強調し、第二次大戦以前の「伝来の宝物」と「大人」と対照させて論じました。

戦後に誕生した東京文化会館、国立西洋 美術館なども含めて、歴史の中で美術館や 美術展示が、社会の中での役割や意味を変 化させてきたことを丁寧に説明していただ きました。

#### 「パサージュとしての美術館!

平出隆さんは、「パサージュとしての美術館」というテーマです。「パサージュ」は、フランス語で「通路、アーケード」という意味で、美術の入口(内部)と出口(外部)をつなぐことに美術館の役割を重ねています。ベルリンのペルガモン美術館、デンマークのルイジアナ美術館、そしてコロンビアのアンティオキア美術館に行った体験から、都市と美術館が持っている強い関係性について話されました。

そして美術館の使命(ミッション)については、大島清次の『美術館とは何か』、ヴァルター・ベンヤミンのパサージュ論、そして前衛美術家である河原温の文章などを引用しながら、作家と鑑賞者を媒介する「通路」であろうとすることを強調しました。

優れた作品の中には必ず作家の「眼」が 含まれていて、その眼が鑑賞者を捕まえて 離さない。優れた作品は逆に鑑賞者に「作品を作れ」と促しているといいます。平出隆さんは、美術館の使命とは、このように双方向的な「通路」を作品と鑑賞者の間に作ることだと語りました。

#### フォーラムディスカッション

美術館の学芸員からは、東京都美術館の90年の歴史や、展覧会事業、アート・コミュニケーション事業のさまざま新しい試みとそのミッションについて説明がありました。第2部のフォーラムディスカッションでは、これらの報告を踏まえて、3人の登壇者の間で東京都美術館のミッション「創造と共生の場」をテーマに議論が行われました。

平野さんは美術館が行うべき来館者への「ケア(心遣い)」について語り、木下さんは上野の文化施設の連携への取り組みについて評価し、平出さんは上野という場所が持つ歴史的な特性について触れました。

東京都美術館の歴史については「読売アンデパンダン展」など、美術館を舞台に熱い議論と展示が行われた1950~60年代に話題が集中しました。平出さんが美術、音楽、映画、文学、演劇など、さまざまなジャンルのクロスオーバー(越境)が行われた当時の雰囲気を話し、現代では各ジャンルの境界が強くなり、そのような越境はほとんど失われていると話しました。

それを受けて、平野さんは現代の文学や 美術について、すでにある社会問題を題材 として取り上げるのではなく、作品の内部 にそのような問題や矛盾が描き込まれてい て、それが逆に境界外に新しく社会問題を 喚起するのが本当ではないかと語りまし た。同様に、美術館も現実に社会的困難の 中にいる人が、美術館で芸術体験をするこ とで、再び社会に出て他者にアプローチす る元気や勇気を持てるようになること、そ のように外部に開かれていくことが重要で はないかという趣旨の発言がありました。 木下さんは「アート」という言葉の持つ意 味について自覚的であることの重要性を指 摘し、平出さんはジャンルを超える力は作品体験そのものの中から生まれると強調しました。熱い議論が行われる一方で、平野さんの曾おじいさんが、大正時代に東京府美術館に当時のお金で100万円を寄付した佐藤慶太郎の従兄弟だったことも話題になりました。

また、美術館の年齢を人間になぞらえて、登壇者の皆さんからさまざまな例え話もありました。確かに、60年、90年はまだまだ一世代です。これから、さらに100周年に向けて、改めて東京都美術館の歩みをしっかりと継承していきたいと考えています。(山村仁志・東京都美術館学芸担当課長)



フォーラムディスカッションの様子

(撮影:齋藤さだむ)

# 開館90周年記念 アーカイブズ資料展示 造形講座と東京都美術館

90th Anniversary Archives Materials Exhibition Art Workshops and Tokyo Metropolitan Art Museum

東京都美術館は1975年の新館オープンを機に、企画展をはじめとするさまざまな自主事業を展開しました。なかでも1978年に開講された「造形講座」は、日本の美術館における「ワークショップ」形式のプログラムの先駆けとなりました。

開館90周年を記念し、当時の美術館の息吹を伝える記録写真や参加者による作品などの貴重なアーカイブズ資料を展示し、現在アート・コミュニケーション事業を展開している当館の歩みの一つを振り返りました。会期中には、「造形講座」の当時の関係者が来場し、一人ひとりの記憶がよみがえる場面もありました。今後も「造形講座」についての調査や資料収集を継続していきます。

#### 開催概要

開館90周年記念 アーカイブズ資料展示 造形講座と東京都美術館

会期/2016年11月3日(木・祝)~12月4日(日) 会場/東京都美術館 佐藤慶太郎記念 アートラウンジ 主催/東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団) 出品点数/187点 On reopening in a new building in 1975, Tokyo Metropolitan Art Museum took a new tack and began offering special exhibitions and other self-produced programs. Among those programs were "Art Workshops," launched in 1978, that are considered forerunners of the workshop-style programs held today at Japanese art museums.

As a special 90th anniversary event, an exhibition of archive materials from those workshops was held. Through documentary photos, artworks by participants, and other precious archive materials that convey the atmosphere of the museum at that time, the exhibition looked back at a historical moment in Tokyo Metropolitan Art Museum's commitment to art-communication projects. During the exhibition, people who helped organize and attended the workshops visited the venue and gave their recollections. Research and archiving related to the "Art Workshops" will be ongoing, hereafter.



小冊子/小冊子や広報物のメインビジュアルに使用した「色鉛筆 (黄・赤・青)のグラデーション」は、第5回 造形基礎講座の参加者による作品



展示風景



「第15回 平面造形講座」風景 (1985年) / 演劇的なアプローチも取り入れたプログラム。この講座では、身体的な感覚を呼び覚ましながら、「線」という造形の要素と出会い、「動く」ことと「描く」こととの関わりを発見していった



「第15回 平面造形講座 線のドローウィング」の資料展示風景/講座は1985年10月15日から11月14日まで、全10回開催された

\*「造形講座」に関連する資料をお持ちの方は、東京都美術館までお知らせください。

# 開館90周年記念展 木々との対話 —再生をめぐる5つの風景

Tokyo Metropolitan Art Museum's 90th Anniversary Exhibition Dialogue with Trees—Five Stories of Rebirth and Renewal

1926 (大正15) 年、上野公園に開館した東京都美術館。開館90周年を記念して開催した展覧会が「木々との対話―再生をめぐる5つの風景」です。

命ある存在として、人々の暮らしに深く関わる木に向き合う現代作家——國安孝昌、須田悦弘、田窪恭治、土屋仁応、舟越桂——。木という素材が持つ深遠なる象徴性を感じさせる、全く様相の異なる「5つの風景」が、展示会場のギャラリーを飛び出し、美術情報室や東京都美術館の敷地での展示も展開。「再生」をテーマに「木」の素材を活かした、5人の作家による「5つの風景」をつくり出しました。

Tokyo Metropolitan Art Museum opened in Ueno Park in 1926. The exhibition "Dialogue with Trees—Five Stories of Rebirth and Renewal" celebrated the 90th anniversary of its opening.

Featured were contemporary artists who work with trees, living entities integral to human life—KUNIYASU Takamasa, SUDA Yoshihiro, TAKUBO Kyoji, TSUCHIYA Yoshimasa, and FUNAKOSHI Katsura. Their five unique "stories," which spilled from the museum's galleries into its library and archives and museum compound, gave visitors experiences of the deeply mysterious symbolism enabled by wood as a medium. Working under the theme "rebirth and renewal," the artists created "five stories" giving play to the material "wood."

## 開催概要

開館 90 周年記念展 木々との対話―再生をめぐる 5 つの風景

会期/2016年7月26日(火)~10月2日(日)

会場/東京都美術館 ギャラリーA・B・C

主催/東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)協力/ギャラリー小柳、西村画廊、メグミオギタギャラリー、

上野「文化の杜」新構想実行委員会

特別協力/新日鐵住金株式会社

出品点数/46点

#### 関連イベント

- ○舟越桂 講演会 / 7月 31 日(日) 15:00 ~ 16:30
- ○田窪恭治 アーティストトーク/8月14日(日) 14:00 ~ 15:00
- ○いとうせいこう(作家: クリエーター)×須田悦弘トークショー「植物に動かされる僕たち」/9月2日(金) 18:30~19:30

○学芸員によるギャラリートーク/8月21日(日)、 9月4日(日)、10日(土)、17日(土) 14:00~15:00

#### 関連プログラム

○「木々のアトリエ|

会場では、さまざまな木の素材に触れられるほか、ワークショプやツアーも開催。アトリエでは、アート・コミュニケータ(きぎラー)が案内しました会期/8月3日(水)~7日(日)、9日(火)会場/公募展示室 ロビー階 第3プログラム/①土屋仁応さんとワークショップ「想像の動物ってどんな風に生まれるの?」②須田悦弘さんの公開制作「上野公園を歩き、そして《雑草》が生まれるまで。」③國安孝昌さんと一緒に巡る「木々との対話」④きぎラーによる「『木々のアトリエ』発館内ツアー」



國安孝昌 KUNIYASU Takamasa

國安さんは、1980年代から空間を編むように木と陶ブロックを積み上げる、ダイナミックなインスタレーションに一貫して取り組んでいる作家です。本展でも、天井高10メートルを超えるギャラリーの空間を生かした、スケール感のあるインスタレーションを行いました。丸太と陶ブロックを編みこむように積み上げた作品は、周囲の空間を一変させるほどの強い存在感を放ち、古代のモニュメントを彷彿とさせました。



《CHI VA PIANO VA LONTANO 2016 (静かに行く人は、遠くへ行く。)》2016年 CHI VA PIANO VA LONTANO 2016



須田悦弘 SUDA Yoshihiro

須田さんは、本物と見まがうほど精緻に 雑草や花を彫刻し、その彫刻を置くインス タレーションにより知られる作家です。作 品が置かれる空間や環境にも細心の注意を 払い、普段、着目しないような、なにげな い場所に存在するはずのない植物を出現さ せ、緊張した空間を創り出します。本展で は、展示室の通路や隙間だけでなく、展示 室以外にも、繊細な新作のインスタレー ションが展示されました。



《バラ》2016年 Rose, 2016



田窪恭治 TAKUBO Kyoji

田窪さんは、フランス・ノルマンディの「林檎の礼拝堂」の再生プロジェクトなどで知られる作家です。本展では、1980年代に精力的に取り組んだ、廃材の上に金箔を貼るアッサンブラージュの作品を展示しました。さらに新作として、東京大空襲(1945年3月)で被災した当館の大イチョウの下に、コルク(CORQ®)というコルテン鋼のブロックを敷き詰めるインスタレーションも展示しました。



《感覚細胞 – 2016・イチョウ》 2016年 Sensory Cells – 2016 Gingko



土屋仁応 TSUCHIYA Yoshimasa

土屋さんは、実在の動物や神話や伝説の 生き物を、仏像彫刻の技法を取り入れて彫 刻し、独自の技法による着色を施す作家で す。一見かわいげな動物彫刻は、形態も質 感も彩色も独特であり、現実とも幻想とも つかない不思議な気品とオーラに包まれて います。生まれ出ずる喜びや、はかなく、 傷つきやすい命の尊さを見るものに感じさ せてくれます。本展では、旧作とともに新 作の大型彫刻を展示しました。



《鳳凰》2016年 Phenix, 2016



舟越 桂 FUNAKOSHI Katsura

舟越さんは、気品と格調の高い木彫による肖像彫刻と「スフィンクス・シリーズ」など異形の人物像で知られる、今日の日本を代表する作家です。風景や物語を感じさせる奥行きのある作風は、悲しみや怒り、憎しみという負の感情も含めた、人間の存在そのものを肯定する、強いメッセージを放つものです。本展では、「スフィンクス・シリーズ」など過去の作品とともに、最新作の彫刻とドローイングを展示しました。



《海にとどく手》2016年 Hands Can Reach the Sea, 2016

(作品撮影:齋藤さだむ)



木々のアトリエ



13

ポスター

# 私の都美ものがたり

My Tokyo Metropolitan Art Museum Story

開館 90 周年を記念した、フォーラムやアーカイブズ資料展示、展覧会を展開するほか、特設ウェブサイト「東京都美術館 開館 90 周年 1926—2016 | を立ち上げました。

「東京都美術館」をテーマに、「私の都美ものがたり」と題して、13人の著名人の方々にご寄稿をいただいています。まるで懐かしい"人(=美術館)"と再会するような感慨深さを感じるなど、さまざまな東京都美術館の姿が登場します。

Besides a forum, archives exhibition, and special exhibition, Tokyo Metropolitan Art Museum also launched a special website "Tokyo Metropolitan Art Museum 90th Anniversary 1926—2016" to mark its 90th anniversary. Thirteen celebrities were asked to write on the theme "My Tokyo Metropolitan Art Museum Story." Their writings evoke various images of the museum, some with the deep emotion of a reunion with a nostalgic old friend.

「パンダとアンデパンダン」 浅生ハルミンさん(イラストレーター)



澤田瞳子さん(小説家) 「新たな世界との邂逅を与えてくれた、大いなる扉」



「美術に**目覚める**きっかけとなった場所」 とに~さん(アートテラー)



賀来千香子さん(女優) 「極上の刺激とインスピレーションに期待」

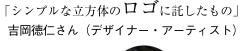


小日向えりさん (歴ドル) 「おひとりさま デビューの思い出の地」





和田彩花さん(アイドル・タレント) 「**衝撃的**だった『ポンピドゥー・センター傑作展』」







平野啓一郎さん(作家) 「個人的にも**特別**な場所」

「『小路』の向こうに見える雲は」 森田正光さん(気象予報士)





平田オリザさん(劇作家・演出家) 「そこに フェルメールがいる」

「前川國男が東京都美術館に託したもの」 松隈洋さん(京都工芸繊維大学教授)





「『楽園展』との出会いが本気で好きになった瞬間」 久田恵さん(ノンフィクション作家)

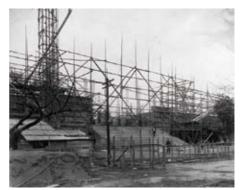


中村 剛士さん(美術ブロガー) 「日本で最も **フェルメール**に出逢える美術館」

\*全文は、90周年特設サイト [http://90th.tobikan.jp/essay.html] にてご紹介中です。

# 写真で見る東京都美術館の軌跡

1926年に開館した岡田信一郎設計の東京府美術館。列柱が並ぶその威厳ある建築は「美の殿堂」とも評された。この写真には、木の足場が組まれ、建設工事が始まったばかりの旧館の姿が記録されている。この後50年もの間、たくさんの人が踏みしめて上った入口の階段。美術館の90年に及ぶ歩みはここに始まった。



旧館建設風景(1924年頃)

東京都美術館ニュース Tokyo Metropolitan Art Museum News No.451 90周年記念号

発行日 / 2017年3月31日 発行 / 東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団) 翻訳 / アムスタッツ コミュニケーションズ 企画・編集 / 東京都美術館 広報担当 印刷・製本 / 三永印刷株式会社

© Tokyo Metropolitan Art Museum

東京都美術館 Tokyo Metropolitan Art Museum

〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36 TEL 03-3823-6921 東京都美術館公式サイト http://www.tobikan.jp 90周年特設サイト http://90th.tobikan.jp Twitter: tobikan\_jp Facebook: TokyoMetropolitanArtMuseum